

「原子力・エネルギー教育支援事業」講演会報告

文部科学省の「原子力・エネルギー教育支援事業」に関する取組の一環として、講演会を実施しました。

日 時：平成25年11月27日(水) 14:10~15:30

講 師：岐阜大学工学部電気電子工学科准教授 伊藤 貴司 先生

演 題：新エネルギーと太陽電池開発の現状

対 象：本校2年生理系195名

講演内容：



人口増加に伴うエネルギー使用量が飛躍的に増大しており、このままいけば化石燃料等もやがて枯渇する。また、化石燃料の使用が続けば、地球温暖化を助長するなど問題点は多い。

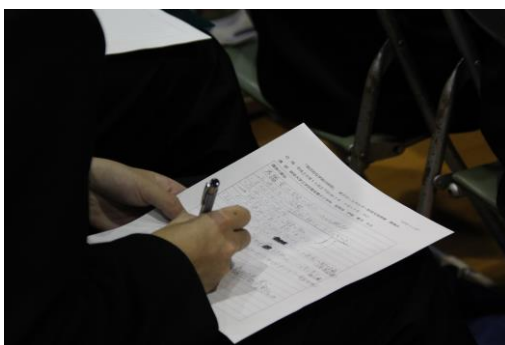
一方、地球表面に注ぐ太陽エネルギーは全世界の消費エネルギーの実に30万倍である。この太陽エネルギーを有効に使う手段として太陽光発電がある。

太陽光発電については、すでに実用段階ではあるが、現状ではたくさんの課題がある。

将来の展望は、様々な工夫やアイデアを取り入れ、さらに有効に太陽エネルギーを利用することである。

かつて日本がリードしていた太陽光パネルの分野にも、中国をはじめとする新興国が参入し、シェアを拡大している。

この分野では、日本が最先端の技術をリードしている。現在も、さらなる発電能力の向上を目指して研究開発が進められており、太陽光発電は大きな産業として期待されている。



生徒の感想・学校の授業では聞くことのできない貴重なお話しで、大変興味をもった。

- エネルギー開発における、日本の置かれた立場が理解できた。
- 僕たちがエネルギーの効率的な利用法を提案できるように、勉強をがんばろうと思った。